日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧　　師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規

教 会 報

180 号 2017 年 4 月 2 日

〒152-0022
東京都目黒区柿の木坂
1-31-19
電話：03-3717-3870
Fax：03-3717-3916

巻頭言

「十字架においてたたえられるお方」

――フィリピの信徒への手紙第２章６～８節――

牧師　渡邊　義彦

キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じものになられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

(新共同訳聖書)

御子が人としてお生れになったクリスマスに、御子が寝かされた飼い葉桶を囲んだのは、わずかばかりの人たちでしかありませんでした。母マリア、父ヨセフ、天使たちの知らせを聞いて馳せ参じた羊飼いたち、はるばる東方の国から輝く星を頼りにやって来た博士たち。わずかばかりの人々が御子の人としてのお誕生に立ち会い、礼拝を献げました。天においては、御子の人としての誕生を祝う天の大軍の讃美が響いたと言うのです。永遠の昔から、世界が造られる遥か前から、永遠に神の子として既におられた御子が、御父の大命を帯びられてクリスマスの日に人としてお生まれになりました。御子の人としての誕生は天における大きな喜びでした。ついに世界の救いのために必要な御業が開始された。世界を救われるために必要な最後の手立てを御父が尽くされるため、御子を世界に人として、人の子としてお遣わしになられる。世界の救済の頂点を迎えることに天には大きな喜びがあったのです。しかし、地上の讃美は、まだまだ小さな静かなものでした。わずかばかりの人たちが、御子の誕生をお祝いしたに過ぎませんでした。

成人なさった主イエスは、洗礼者ヨハネから洗礼をお受になります。罪をひとつも、一かけらもお持ちにならない主が罪人と同じ洗礼を受けられることが正しいこと、ふさわしいことであるとおっしゃり、これをお受けになるのです。主が、罪人と同じところに立たれること、罪を持たれないままで罪人と同じ道を歩まれること、生きられることを明らかになさったのです。クリスマスのとき、既にこの道に歩まれることは決まっていました。神の御子、すべてにおいて満ちておられ、何ひとつ不足なく、欠け無きお方、ひとつの影も曇りもないお方が、なお闇や影を持ち続け、悲しみや苦しみ、憎しみや争いの尽きない、この世界に、まったく無防備な、父母の全面的な保護無くしては一日たりとも生きることのできない赤子としてお生まれになったということ、罪を自分では贖うことのできない人間としてお生まれになったということは、そ

もそも、このわたしたち罪人と同じになってくださる、ということでした。

冒頭に引いた使徒パウロの言葉は、讃美歌の歌詞であった、と言われています。歌は 11 節まで続きます。おそらくパウロがこの手紙をフィリピ教会に送ったのは、紀元 50 年代、60 年にはなっていない頃と考えられています。主の御受難、主イエスが十字架に処刑されたのは紀元 30 年代前半です。そうすると、この讃美歌が流布し教会で歌われるようになるまで 30 年と時間を経ていないことになります。このわずかな年月にキリストを讃える讃美歌が教会で歌われ、教会の礼拝がキリストに献げられていたのです。今、わたしたちは、当然のようにキリストを救い主と告白し、キリストは主であられ、キリストは神の子だと告白し、讃美し、キリストの御名を呼び祈ります。しかし、キリストの十字架刑から、30 年と経っていない間に、既に教会でキリスト賛歌と呼ばれる、信仰を告白する讃美歌が歌われ、キリストがほめたたえられていたのです。

ナザレのイエスが、ゴルゴダの丘の十字架に上げられて処刑され、殺されたことを覚えている人たち、実際に手を下したであろう人々が、まだ生きているような時代であったはずです。十字架に処刑された男を、神の子、メシア、救い主と信じ礼拝することを、神に対する冒涜だと激しく反対し迫害する勢力が日増しに強くなってゆくような頃です。そのような時代、社会に、教会は十字架の主をわたしたちの救い主だと歌い続けてきたのです。十字架に主が命を献げてくださったのはわたしたちのためであり、キリストが死に至るまで、それも十字架の死に至るまで父なる神の御旨に従われたがゆえに、わたしたちは罪赦され救われたのだと声高らかに歌い続けたのです。十字架の主をほめたたえる讃美、十字架の主をわれらの救い主と告白する信仰の告白があって、讃美が歌われ告白し続けられて、教会がこの時代ここにあるのです。教会は、いつの時代にも十字架を掲げ続けてきました。良い時代もありました。暗く、つらい時代もありました。しかし、どのようなときも、どのようなことにおいても、十字架の主こそわれらの救いと信ずることをやめませんでした。

パウロには、このキリスト賛歌を引いて、フィリピ教会に訴えたかったことがあったのでしょう。同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、一つ思いとなるようにと教会に勧める文脈でこの賛歌を引き、キリストがしてくださったことを思い起こすようにと勧めます。その詳細は、わたしたちにはわかりません。それぞれの時代、それぞれの教会、一人一人の兄弟姉妹たちそれぞれに固有な、ユニークな課題があります。そのすべてをわたしたちは互いに十分知り合っているわけではありません。お互いのことを良く知り合い、祈り合うことのできる兄弟姉妹同士ももちろんいることでしょう。しかし、すべてがそうでなくてはならないのではありません。すべてにおいて、すべてであられるのは神です。そうであれば、わたしたちはどうすべきでしょうか。キリストを知ることです。キリストを救い主と信じ仰ぎ、ほめたたえることです。十字架を負われたキリストに救われることです。そして、十字架の主キリストをこそ世界に宣べ伝えなくてはなりません。

柿ノ木坂教会の十字架
左から:3代目、4代目、5代目会堂の外部、5代目礼拝堂正面

＜主の働き人・各会・各グループは今　32＞

礼拝の賛美を力強く、心から捧げたい（讃美歌練習）

井澤　浩一 ＋（参考資料　桝田　恒）

はじめに

讃美歌練習は何年くらい続けているのか。何曲くらい練習したのか。

諸行事のためなくなることも多いのですが、原則、月の最終主日の礼拝後に、みなさまとご一緒に「讃美歌練習」を行っています。単純に計算すると、実施率は60%程度でした。

かつては棟居正さん、石岡美典子さん、故・石田克己さんなども一部ご担当頂いた時期がありますが、主に桝田恒さんと、わたし井澤がほぼ交替で続けてまいりました。

この讃美歌練習はいつごろから始まったのか、記録があいまいですが、いわゆる54年版讃美歌から、現在使っている讃美歌21に切り替える前に、時々使った1992年発行の「改訂讃美歌試用版」を練習した記憶があります。そして、柿ノ木坂教会では1998年9月から「讃美歌21」に切り替えていますから、この時点できちんとした形での開始ということでしょう。それから数えても20年は続いていることになります。今までに練習した曲数は100近く。ややなじみのない曲では同じ曲を2回、3回と取り上げたものも。4回取り上げた曲もひとつありました。

どうして讃美歌練習をするのか

１）なぜ私たちは歌うのでしょうか

私たちの礼拝の式次第は、週報の礼拝式順序に《　》で記してあるように、大きく二つの方向で構成されています。神から私たちに向かう方向。そして、私たちから神に向かう応答。聖書朗読や説教は神の言葉を与えられる部分。祈りや讃美歌を歌うのは、神から与えられる御言葉への賛美応答です。

「詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほめたたえなさい。」(コロサイ 3.16 など)と、パウロが教えているように、歌うことによって神への賛美応答することは、詩編の時代から続いているキリスト教の基本的な礼拝の形です。

その意味で、私たちが礼拝で歌う讃美歌は、心から（ということは自然に声が大きくなりますよね）神に感謝し、賛美するものでなくてはなりません。

でも、礼拝で歌う讃美歌は、その日の神からのメッセージへの応答として相応しいものが選ばれますので、必ずしも私たちに馴染みがある、あるいは歌いやすい讃美歌とは限りません。

たとえば、初めて歌う讃美歌の場合、どうでしょう。歌詞を追うのに精いっぱいで、意味を取れないまま歌ってしまうことも起きますし、旋律になじみがないと、それにも戸惑うことがあります。また逆に、余りに慣れ親しんだ讃美歌だと、惰性で歌ってしまうこともあり得ます。

そこで、特に新しい歌詞、馴染のない旋律の讃美歌が選ばれている場合、少なくとも、旋律と共に歌詞をよく予習して、少しでも楽に歌えるようにしておくと、神様へ向かうことに集中できるのではないでしょうか。

２）賛美歌は信仰者が作ったもの

不変の神の言葉そのものを記した聖書と違って、賛美歌はその昔から、実に多くの人たちが詩を創り、作曲してきました。多くの讃美歌が生まれ、今も生み出されているのです。賛美歌は、すべて神への賛美応答が基本になっていますが、創られた時代時代の背景もありますし、創った作詞者或いは作曲者の信仰的背景があります。讃美歌集は適宜改訂が続けられていますが、それは、神学的な進歩によって見直された、時代の変化に合わせた、そしてキリスト教が世界に広がっていったことによって、各地で生まれた賛美歌を、その歌われる地域地域で、信仰的に取捨選択してきたものです。実に多様性に富んだものです。

これらを私たちが礼拝で歌う時、その作詞者や作曲者がどのような背景で曲を作ったのかを知ることによって、その詞の意味が深く理解できるのではないでしょうか。これが、讃美歌練習のもう一つの目的なのです。

３）讃美歌練習担当者はずいぶん博識？

裏話です。練習の時、よく、その賛美歌の作られた背景をお話ししますが、もちろん担当者はそれなりに勉強をしていることもありますが、ネタはあります。これは、読み物としても面白いので、ご紹介しますね。

それは、日本基督教団出版局発行、日本基督教団讃美歌委員会編「讃美歌 21 略解」です。

なお、いわゆる讃美歌一編とか二編と言われている以前使っていた讃美歌にも「略解」があります。讃美歌 21 に載っていない曲についてお知りになりたいときに便利です。「讃美歌略解前篇 歌詞の部」、「讃美歌略解後篇　曲の部」、「讃美歌第二編略解」です。

それ以外の情報仕入れ先のひとつは、井澤が半分興味で入っている学会です。

「日本賛美歌学会」という学会に 2000 年の設立当時から入っています。大会では 2 年おきくらいに各国の講師を招き、その国の賛美歌について学んでいます。

＊なお、改めて書きますが「**賛**美歌」は一般名詞、「**讃**美歌」は固有名詞です。

＜参考＞　讃美歌練習を担当している桝田さんと、井澤が所蔵の賛美歌に関わる本の紹介です。
もしご覧になりたい本があれば、それぞれにお声をお掛け下さい。

Ⅰ．井澤浩一所有資料

１．書籍

①「教会音楽ガイド」日本キリスト教団出版局　2010 年
　＊「２．教会歴と聖書日課」の項は勝田英嗣先生が執筆されています。

②「教会音楽ガイド」日本基督教団出版局 1975 年　①の旧版だが執筆者、内容ともに違う。

③「賛美歌・その歴史と背景」原恵著、1980 年　日本基督教団出版局。2004 年に新版が出た。

④「日本の唱歌と太平洋の讃美歌」安田寛著 2008 年　東山書房刊、日本賛美歌学会で同氏による研究発表があり紹介された本。

⑤「「唱歌」という奇跡 十二の物語・讃美歌と近代化の間で」安田寛著、2003 年 文芸春秋社

⑥「随想集　くいなは飛ばずに」高田三郎著 1988 年　音楽之友社・・高田氏はカトリック典礼聖歌を数多く作曲した作曲家。「みずのいのち」など一般の合唱曲、管弦楽曲も多数作曲。

２）讃美歌集

①日本基督教団出版局発行のもの

「讃美歌 21」

「改訂賛美歌試用版」1992 年（讃美歌 21 に先行して作られた試用版）

「讃美歌・讃美歌第二編・ともにうたおう」（合本）1985 年
　1954 年版讃美歌＋1967 年版讃美歌第二編＋1976 年版ともにうたおう

「讃美歌」1931 年版（1953 年改訂版）

「こどもさんびか」1953 年初版 1966 年改訂

「こどもさんびか改訂版」2002 年初版

②その他プロテスタント

「新聖歌」2003 年（日本福音連盟）

「新生讃美歌」2009 年（日本バプテスト連盟）

「教会福音讃美歌」2013 年（福音讃美歌協会）

③聖公会

「古今聖歌集増補版」1995 年

「聖歌集」2006 年初版

④カトリック

「典礼聖歌」1980 版

カトリックは第 2 ヴァチカン公会議を経て、ミサを各国語で行ってもよいことになったとき、日本語で歌える典礼聖歌が作られ始め、毎年分冊で発行されてきたが、9 分冊を経て、一冊にまとめたものが発行された。

⑤正教会

「正教聖歌」2002 年版日本ハリストス正教会教団東京復活大聖堂編　（東京復活大聖堂とはいわゆるニコライ堂。正式には、「日本ハリストス正教会教団　東京大主教教区　東京復活大聖堂教会」です。同教団は東日本、東京、西日本の各主教教区に 32＋20＋15＝67 教会あるそうです。

⑥外国の賛美歌
「Evangelisch-reformiertes Gesangbuch」 スイス・ドイツ語圏改革教会賛美歌集 1998 年改訂版
「Evangelisches Gesangbuch」 ドイツ福音教会賛美歌集（2007 年改訂）
「Gotteslob」 ドイツカトリック共通教会歌集（2013 年改訂）
「The Celebration Hymnal」 アメリカ 1997 年
「みんなで輝く日が来る」 アイオナ共同体（イギリス）賛美歌集抜粋日本語版 1999 年
「すべての人よ　主をたたえよ」 テゼ共同体（フランス）の賛美歌集抜粋日本語版 1999 年
「竹を鳴らせ」 アジアキリスト教協議会賛美歌抜粋日本語版 2000 年
「おお なんという恵みよ！」 パブロ・ソーサ（アルゼンチン）による賛美歌集抜粋日本語版 2009 年
３）「礼拝と音楽」誌（日本基督教団出版部）バックナンバー
月刊 136 号（1966 年）、
季刊 30 号（1981 年）、50、54、55、57、58、64、66～172 号 2017 年 2 月発行分まで

Ⅱ．桝田恒所有資料（井澤と共通のものは省く）
１．書籍
①「こころに残る讃美歌物語 100」 李重台著　2005 年（株）ヨベル
②「讃美歌作家の面影」 津川主一著 1955 年 ヨルダン社
③「メソジストの音楽」 山本美紀著 2012 年（株）ヨベル
④「日本のキリスト教芸術 Ⅰ 音楽」 横坂康彦著　2006 年　日本基督教団出版局
⑤「キリスト教音楽 名曲 CD 案内」 川端純四郎他著　2005 年　日本基督教団出版局
２．讃美歌集
「聖歌」 日本福音連盟　1958 年版
「新聖歌」 同上　2001 年版
「インマヌエル讃美歌」 インマヌエル総合伝道団　1981 年版
「教会讃美歌」 聖文舎讃美歌委員会　1974 年版

☆☆☆教会の行事☆☆☆

◆いままであったこと
◇例年 1 月に実施の教会学校の「おもちつき」はインフルエンザ流行もあり中止。
◇3 月　1 日（水）灰の水曜日、受難節に入る。

◆これからの予定
◇4 月　9 日（日）棕櫚の主日、受難週に入る。
2017 年度定期教会総会
◇4 月 13 日（木）洗足木曜日
◇4 月 14 日（金）受難日
◇4 月 16 日（日）復活日（イースター）
◇6 月　4 日（日）聖霊降臨日（ペンテコステ）

集会出席統計（月平均人数）

	2017年	
	1月	2月
主日礼拝	75.0	83.8
聖書と祈り会	13.3	12.3
教会学校＊	84.2	94.8

＊保護者、教師を含む

（第1主日開催）	1月1日	2月5日
聖餐夕礼拝	6	9

わたしの聖句、わたしの讃美歌 １０

「めぐみの光」

平岡　昭子

めぐみの光は、わが行き悩む、
やみ路を照らせり神は愛なり。
われらも愛せん、愛なる神を。
（1954 年版讃美歌 87 番）

私の父はこの讃美歌が好きでした。というよりこれ一つしか讃美歌を知らないのではないかと家族は思っていました。自分勝手ですぐに怒り散らし、母を困らせていた父を私はいつも「クリスチャンらしくない」と不満に思っていました。

けれども、結婚して間もなく、私は母からこんな話を聞いてびっくりしました。父は、自分の将来を考えて悩んでいた時、悩んだ末に高瀬恒徳主教（日本聖公会聖テモテ教会）の元を訪れ、お祈りしていただいたということでした。「ああ、父はこの讃美歌の意味を家族のだれよりもよく知っていたのだ」と思ったのです。神様のなさることは素晴らしいと思いました。

うれいのときにも　のぞみをあたえ、
なぐさめたまえり、神はあいなり。
われらも愛せん、あいなる神を。

祖父の記念会や祖母の 80 歳のお祝いの時も歌ったこの讃美歌を父のお葬儀ではしみじみと歌いました。そして 8 年前、浜松に赴任なさる直前の勝田先生に母を送っていただいた時もこの讃美歌を入れていただきました。私の時もきっと・・

柿ノ木坂教会に転会してもう 30 年近くになりました。敬愛する先生方やたくさんの教友に恵まれて、感謝の日々を送っています。

その中で、CS との合同礼拝は私の大好きな日です。

こういう日に歌われる子供讃美歌は何とかわいいのでしょう。こんなにすなおな CS 時代が私にもあったのでしょうか。

よい子になれない私でも、
神様は愛してくださるって、
イエスさまのおことば。

今イースターに向けて、聖歌隊で練習している子供讃美歌も好きです。

イースターの 8 日めに
「ぼく信じない」ってトマスがいうと、
十字架でしんだ　あのイエスさまが
へやに入ってきた

東日本大震災の被災地、岩手の宮古に 5 年間通い続けた久保なみよ姉に感動して、たった 1 回だけお供させていただいた時がありました。子供のお絵かき教室をあちこちに開設して精力的に働く久保姉が「今回は羊をテーマにするから、99 匹の羊の話をしてくださる?」と言われました。

その時、すぐに思いついたのが、昔から好きだった子供讃美歌でした。

小さいひつじが　いえをはなれ
ある日とおくへ　あそびにいき
花さく野はらの　おもしろさに
かえるみちさえ　わすれました

けれどもやがて　よるになると
あたりはくらく　さびしくなり
うちがこいしく　ひつじはいま
声もかなしく　ないています

羊の絵を書いた子供たちが静かに聞いてくれました。2 日間で学童保育、保育園を回り、最後の 5 カ所目は田老地区の仮設住宅の集会所、私たちと同年代の被災者の方々が、折り紙をしながら、お茶を飲んでいました。どう話しかけてよいかもわからない場所で、なみよ姉に促されるまま、歌いました。

なさけのふかい　ひつじかいは
このこひつじの　あとをたずね
とおくのやまやま　たにそこまで
まいごのひつじを　さがしました

とうとうやさしい　ひつじかいは
まいごのひつじを　みつけました
だかれてかえる　このひつじは
よろこばしさに　おどりました

人前で歌ったことのない私でしたが、心が通じたと思いました。涙ぐんでくださった方々に神様がやさしく声をかけてくださっているのを感じて、心が熱くなりました。

「人よ、何が善であり
主が何をお前に求めておられるかは
お前に告げられている。
正義を行い、慈しみを愛し
へりくだって神と共に歩むこと、
これである。」（ミカ書 6：8）

この聖句は、私の家にしばらくステイしていたカナダの留学生が帰る時に私にくれたみ言葉です。6 年前、旅行の途中で彼女に再会しました。なんと 2 人の子供の肝っ玉母さんになっていました。

「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ」
（ヨシュア 1:5-6）

渡邊先生の聖書と祈り会でヨシュア記に入った時に何度も何度も出てきたみ言葉です。先生の熱の入ったお話と共に今私を励ましてくれています。

人との出会いの度に心に残る讃美歌も聖書のみ言葉も増えていきます。出会った人のお顔と仕種までが一緒になって思い出されます。一つひとつを大切にしながら、これからの出会いも楽しみに、残された人生を豊かに生きたいものです。

179 号訂正

林華子姉から下記のような訂正依頼がありました。教会報 179 号 7 ページ右段上から 16 行目、ルカによる福音書 **25 章 15 節**とあるのを **15 章 11 節**と訂正いたします。編集委員の校正でも気づきませんでした。お詫びいたします。

今月のメッセージ

――ホームページ巻頭言　から――

ホームページには多くの情報が掲載されています。
ぜひご覧ください
http://kakinokizaka-church.com

お前たちのささげる多くのいけにえがわたしにとって何になろうか、と主は言われる。
雄羊や肥えた獣の脂肪の献げ物にわたしは飽いた。
雄牛、小羊、雄山羊の血をわたしは喜ばない。
（新共同訳聖書・イザヤ書第１章 11 節）

東日本の震災翌年から、幼稚園の３学期の終わりに年長組のクラスの子供たちが、被災地の一つの児童館を覚えて、自分たちの手作り品でバザーをしたり、自分たちで劇を作り演じて観劇会を開催をしたりして募金を募ってきました。

今年の卒園生たちは、歌好き音楽好きのクラスでしたので音楽会を開催してくれました。自分たちの自作の楽器でおもちゃのチャチャチャ、ベルや音階の出るポールを一人ずつ持ってドレミの歌を演奏してくれたりと、ほんとうに楽しい音楽会でした。彼らの音楽の献げものに応えて、音楽を楽しませてもらったわたしたちも献げものをもって被災地にある子供たちを支えるため募金を募りました。集められた募金を児童館にお送りします。この児童館も、震災から６年、今年で閉館となり他の児童施設と統合、移転となるそうです。

音楽会で募金を募ることになったとき教師たちと申し合わせたことがあります。集めるお金は子供たちの頑張りへのご褒美ではないし、わたしたちが一般のコンサートへ行くときの料金や素晴らしい演奏への代価ではないということです。子供たちは、自分たちは音楽なら献げることができると演奏に取り組みました。子供たちが音楽を献げることに促されて、わたしたちも被災地のなおいっそうの再建と復興を願い募金を募りました。子供たちは自分たちの役割を良く果たしました。わたしたちも具体的な献げものをもって役目を果たそうと思いました。こうすることで子供たちの献げものも、わたしたちの献げものも一つの方向に向かうことができます。

わたしたちが献げものをすることができることの源には、まず神様が、わたしたちのために、わたしたちを救くわれるために献げてくださったことがあります。神様は、愛する御子、主イエス・キリストを十字架へと送られ、主イエスは、この十字架に御自身の命を、わたしたちを救われるために献げてくださいました。わたしたちの小さな献げものは、神様の、この大きな献げものに根ざしています。到底、キリストの命に見合う献げものをすることは、わたしたちには適いません。ただ感謝をもってわたしたちの持てる小さな献げものを差し出すに過ぎません。

キリストが献げてくださった命に感謝するとき、子供たちの献げた音楽も、わたしたちがこれに応え募った募金も、その意図は被災地支援に留まらず大きな意味を持ち、大きな一つの方向を与えられることになるのです。

（牧師　渡邊　義彦）

―――編集後記―――

・受難節。主のご受難を覚え、教会学校の生徒たちが「がまん献金」をして、復活日礼拝に捧げます。私たちもその気持ちを大切に過ごしたいものです。
・東日本大震災から 6 年、被災地域の再建が進みますように。この地域の子供達への「お絵かき教室」を続けている教会員の活動に、参加したことを通したお気持が「私の聖句・私の讃美歌」に滲み出ています。
・礼拝で、神様に心からの賛美が捧げられるよう、「讃美歌練習」について報告しました。

教会報へのご意見・ご感想をお寄せください。
（編集委員長　井澤浩一）

集会案内

主日礼拝　日曜日　午前 10 時 30 分
聖餐夕礼拝　第 1 日曜日　午後 5 時
入門講座　日曜日　午前 9 時 30 分
教会学校　日曜日　午前 9 時
（幼稚科、小学科、ジュニアチャーチ）
＊ジュニアチャーチは中学生、高校生です。
聖書と祈り会　水曜日午前 10 時、午後 7 時 30 分

日本基督教団　柿ノ木坂教会
〒152-0022　東京都目黒区柿の木坂 1-31-19
電話　03-3717-3870（教会・牧師館）
03-3723-3870（ベテル幼稚園）
牧師　渡邊　義彦
協力牧師　松下　恭規